

発掘して出てきたもの（出土遺物）

※ 全て曲輪 5-1（本丸）出土、縮尺不同



はじきざら
土師器皿（かわらけ）



はじきざら
土師器皿（かわらけ）



かめ とこなめ
甕（常滑）

城跡の草を刈ってわかったこと

・発掘調査の他に、地形を確認するため、生い茂っていた草を除去する作業を行いました。その結果、お城の中の地形が良くわかってきました。

曲輪 12-2（東の丸）のさらに東側

・幅の広い通路（A）と、連続して通路を曲げた箇所（B）、曲輪端から下へ続く通路があることを確認できました。お城の正面がどこかという点を考える上で重要な通路です。



A. 広い道



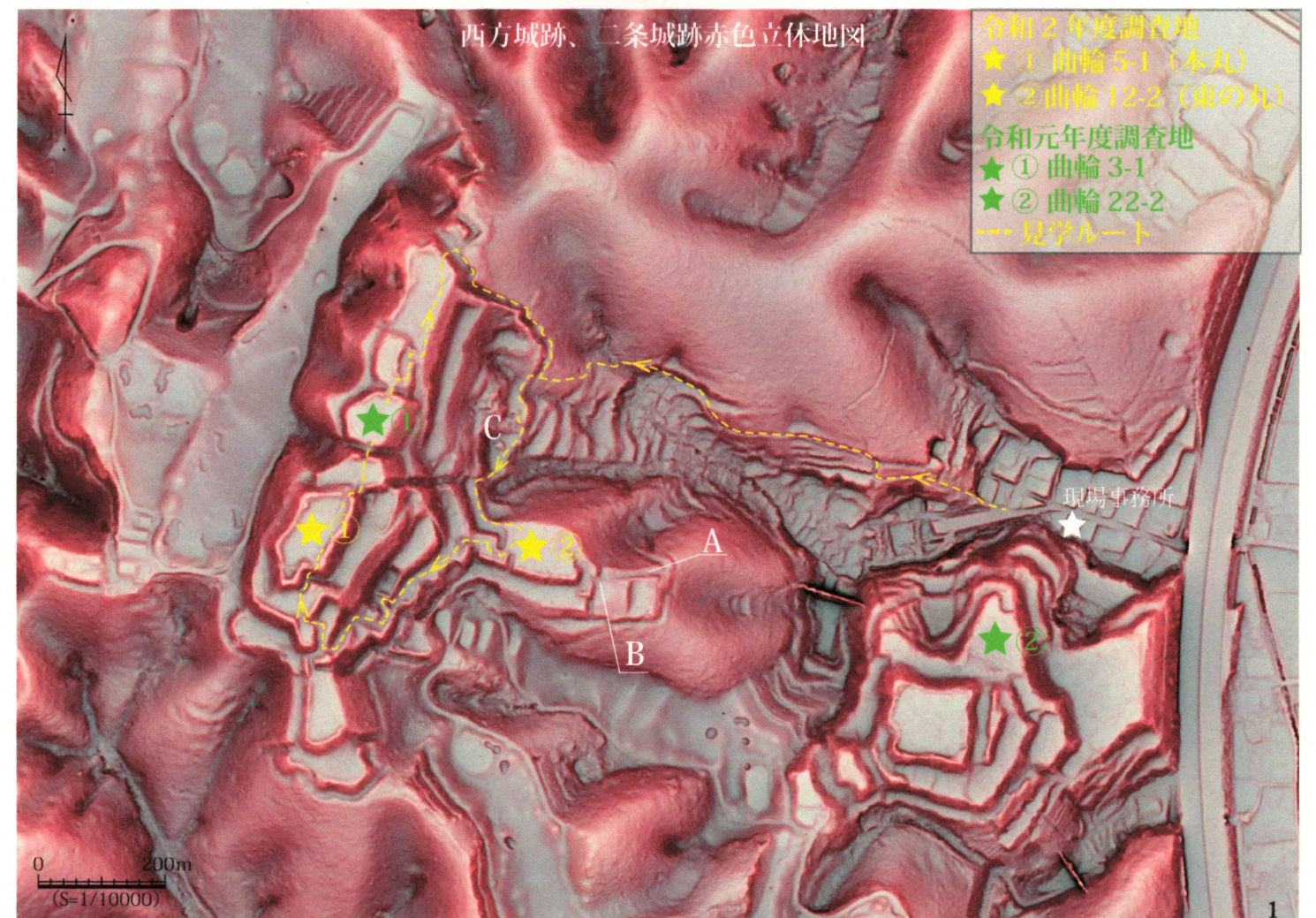
B. 連続折り返し

お城の北東側

・お城の北東側では、山の中腹から山頂にある北の丸の南側へつながる通路（C）を確認できました。また、これまで縄張り図や赤色立体地図で良く分らなかった、北東側の曲輪の広がり確認できました。北東側の曲輪には、土塁があまり見られない特徴があります。

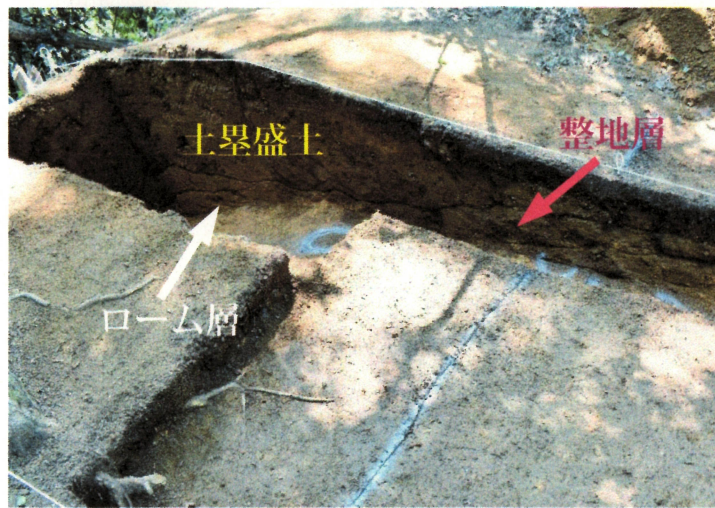


C. 通路



曲輪 12-2 通称東の丸 令和2年度調査

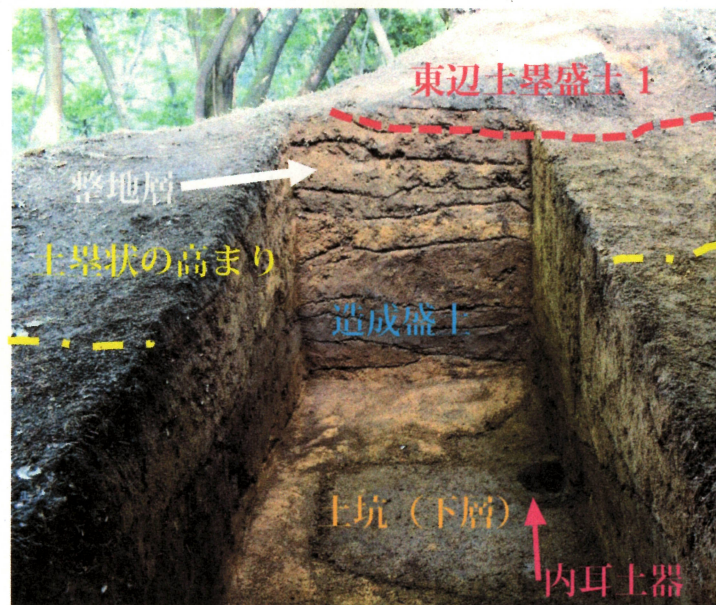
- 中央に礎石らしき石、ピット（小穴）が多数発見され、建物があった可能性が高まってきました。



- 造成盛土中から内耳土器が出土し、16世紀初め以降に造成されたことが分かりました。

- 北側には土塁がなく、南側の土塁には、石が使われていませんでした。東側の土塁も石を使っていない可能性があります。

- ◆ 調査では、近世初め頃の遺物が出土せず、城が使われなくなった年代について謎のこりました。



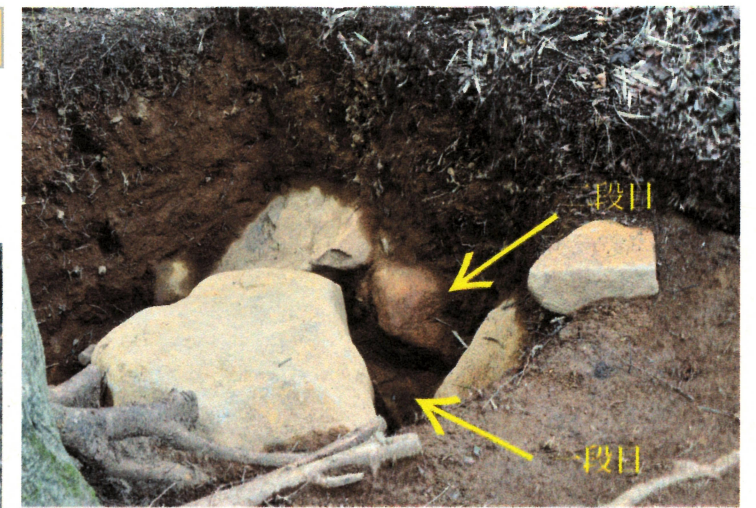
出土した内耳土器

曲輪 5-1 通称本丸 令和2年度調査

- 北側の土塁内側の端で、2段の石積みが発見されました。西側の土塁でも、内側端に石を並べています。



- 曲輪北側には、石の列が発見されました。列より西側へ若干地面が高くなるため、通路とそれを区別したものと考えられます。



- 中央に礎石、全面にピット（小穴）が多数あり、建物がある可能性が高まってきました。
- 南東部では山を削った土を盛土して平坦地を造った、お城を造成した跡がありました。
- ◆ 巨石は山の土を堀り残したもので、巨石が囲む中にある多くの小石は、意図的に入れたと考えられましたが、どのような性格かは今後の課題です。
- ◆ 出土遺物が非常に少なく、城の終わりの年代について謎が残りました。